

株式会社山崎屋木工製作所

平成26年度

■事業計画名

高断熱性木製サッシのIT利活用した情報提供システム開発

■概要

高断熱性木製サッシの3次元CAD/CAMシステム化と連動したIT利活用、情報提供（コスト・性能・図面データ等）システム開発を行う。

開発したシステムにより、製品情報の提供プロセスと製品の受注プロセスの大幅な改善を図り、顧客の満足度向上による製品売上増を図る。

■分類

- ＜対象類型＞ 革新的サービス
- 付加価値の向上
 - 新規顧客層への展開
 - 商圏の拡大
 - 独自性・独創性の発揮
 - ブランド力の強化
 - 顧客満足度の向上
 - 価値や品質の見える化
 - 機能分化・連携
 - IT利活用＜Ⅰ＞
 - 効率の向上
 - サービス提供プロセスの改善
 - IT利活用＜Ⅱ＞
- ＜事業類型＞ 一般型
- 設備投資のみ

■成果

開発したシステムにより、製品情報の提供プロセスと製品の受注プロセスの大幅な改善を図った。2020年の外皮性能の義務化に向け、本年度にはシステムの運用を目指す。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社山崎屋木工製作所（千曲市）

最先端加工機とITを駆使してつくる
長野県産材高断熱木製サッシのブランド化を進める。

オリジナルブランド 「キュレイショナー」で全国展開

山崎屋木工製作所は卓袱台、茶箆笥など、いわゆる指物の製作・販売で創業。後に店舗什器にも仕事を拡大し、「銀座NAGANO」を始めとする店舗・施設等のカウンター・什器のほか、住宅用の家具、キッチン、建具などの設計・製作・施工を手がけています。木曾ひのき材高性能木製サッシさらに長野県産材を利用した高断熱木製サッシの製造・販売でも売上げを伸ばしています。



つねに木の可能性を追求してきた山崎慎一郎社長。転機が訪れたのは2011年、福島第一原発事故の2カ月後、ドイツ・ハノーバーで開かれた木工機械の国際的展示会で木製サッシの加工機械を見たことでした。

木は熱伝導率が低く、アルミに比べ2,000倍も断熱性能にすぐれた素材。欧米では住宅の断熱性能を高めるため木製サッシの普及率が20～30%なのに対し、日本ではたった1%。その分、エネルギーを大量に消費している現実を突きつけられたのです。「日本は世界第4位の森林保有国。豊富な木材をうまく使うことで消費エネルギーはかなり減らせる。木の可能性はここにあると感じました」。

同社は2011年末、5軸CNC加工機を導入し、木製サッシの製造事業をスタート。良質な長野県産材を有効利用した製品開発を基本方針として定めます。設計事務所とともに環境省のプロジェクトにも参画するなど高断熱木製サッシの研究開発を進め、着実に成果を上げてきました。

同社は完全オリジナル形状で設計し、意匠性と性能に特化した高断熱木製サッシで国内同業社と差別化。オリジナルブランド「CURATIONER（キュレイショナー）」を立ち上げ、全国に販売展開しています。

データの「見える化」を実現

同社ではものづくり補助金を活用し、5軸

CNC加工機と連動する窓枠製造販売プログラム「OPERA」を導入しました。

これは木製サッシの製作図面作成から、部材および生産コストの積算、材料の歩留まり計算、断熱性能（ランニングコスト）や年間エネルギーコスト削減量の計算、さらには木材・複層ガラス・金物等の部材発注まで行えるすぐれたシステム。完全オリジナル形状の製品づくりが可能で、各種データの「見える化」により、2020年に義務化される新築住宅の省エネ基準にも対応するため、木製サッシ普及の追い風になると期待しています。

「木製サッシの売上げが立てられるようになって4年目。2年前から家具を上回るようになり、今期も売上げ目標を上回る勢いです。木製サッシはアルミサッシに比べてかなり高価なため、今はまだ富裕層がメインターゲットですが、より多くのお客様に使っていただけるよう材料やコストなどの研究に取り組んでいます」。

同社では受注増が続く木製サッシに対応し、2019年度稼働を目指して専用工場を隣地に建設する計画です。



木製サッシ加工用5軸CNC加工機



複雑なデザインの家具加工にも対応



ミーティングルーム。同社製の木製サッシ、家具のショールームも兼ねる



株式会社山崎屋木工製作所

代表 代表取締役 山崎慎一郎
創業 1958（昭和33）年10月
資本金 1,000万円 従業員数 12名
本社 千曲市小島2817



TEL.026-272-2106 FAX.026-272-2765
事業内容 オーダー家具の製造・販売、空間コーディネート、ウッドサッシの企画・製造・販売など